

# おし図書館

No.56

発行  
代  
表  
青  
木  
和  
子  
松  
本  
市  
総  
台  
830-60

TEL 367-15384

## 講演会

「これからの

公共図書館とは



浦安市立図書館館長

常世田良氏

10月30日(土) 浦安市立図書館

館長、常世田良さんの講演会を、松戸市民会館で行いました。

毎日および朝日新聞などに

も案内が掲載されたので、遠く千葉や市川、我孫子、鎌ヶ

谷、白井などからも多くの参加があり、また、男性の姿も

多数見つけられました。100名

収容の会場がほぼ満員になり市民の関心の高さをうかがわせました。

## 講演要旨

◎地球規模の大きな変化

これからの公共図書館は、どう  
いう可能性があるのかを、一般論  
として考えていきたいと思えます。

図書館を囲む状況は、社会、経済、文化、家庭、そして、国際情  
況が、地球規模で、それぞれ関連  
し合いながら、大きく変化してい  
ます。経済学者がノーベル賞をも  
らうような、新しい動きが出てき  
ている時代です。均一化を進めて  
来た文部省が各自治体に任せるよ  
うな、本質的な変化の流れが出て  
来ています。行政も会社も、地域  
社会も、今までやって来た通りや  
れば良かったという時代ではなく  
なったのです。

国の判断に任せ、国の言う通りや  
つて、国が責任を持つ時代ではな  
いのです。銀行を選ぶのも、自分  
の判断で選び、自分で責任をとる  
時代へと変わりつつあります。

◎市民の情報収集能力の高度化  
自分で判断するためには、その  
ための情報を、手に入れたければ  
ならない。それにはどうすればよ  
いか。図書館は、そのためにあり  
ます。

情報を手に入れるのに有利な立  
場にいる人が得をする事のないよ  
うに、情報が入りにくい人には図  
書館が情報を提供し、国民が平等  
に情報を得る事ができるようにす  
るのが、公共図書館の役割です。

アメリカでは、図書館にパソコ  
ンが何十台もあり、無料で、誰も  
がインターネットができるとい  
う状況にあります。

日本でも内閣で、百五十億円の

予算をつけて、学校の各教室でインターネットが出来ると、プロジェクターチームを作り始めています。

最近、読書の内容が変化して来ています。一冊の本を最初から最後まで読むという方法だけではなく、浦安の貸出しを見ると、60%は文学以外から情報を得ています。また、多様性のある読書傾向がみとれます。それは一人の人の中にある多様性でもありません。一つの理由だけで図書館を利用しているわけではないのです。こういった大きな世界の変化に日本はどう対処していったらいいのでしょうか。

### ◎図書館の機能と役割

最近はいんターネットで様々な情報を得られますが、人類が歴史上積み重ねて来た文化、知識、情報の99.99%は、本の中にあります。

本やビデオなどを収蔵している図書館は、それらの資料を手段として、市民の質問に対して情報を提供する所であり本という「物」を貸す事だけが目的ではないのです。「貸出」「返却」という言葉は「物を管理する所」をイメージしてしましますが、図書館には本を「返却する事」によって、情報も一緒に返してしまふわけではないのです。それらの情報は、図書館から個人に移行され、その中に蓄積されるのです。

図書館員は、利用者ひとりひとりが何を求めているのかを聞き出す努力が大切です。見ず知らずの人間に、自分のこみいった事情を知られたくないという心理を知った上で、安心感を与えながら求める事を聞いていく努力が必要です。知りたい事がない、困った事がないという人はいないでしょうか。それを解決していきたいというのが人間の本能です。それを助けるのが図書館というものでしょう。その答えが本の中などに見つかれば、人間は身体がしゃんとし、血

色が良いとなり、表情がパツと変わり生き生き喜びが出て来るのです。新しい事を知った時や、問題を解決した時人間は精神的活動と肉体的活動は一体だと思える程の劇的な変化を遂げるのです。これは遺伝子に組み込まれている人間の本能です。図書館は制度として存在するばかりではなく最終的には人間の本能にまで辿り着くためにあるのです。

### ◎情報公開の窓口としての役割

行政・市議会が正しい判断を下すために必要な情報資料を提供する事ができる図書館であってほしいものです。必ずしも市民からみて良いとはいえない判断を行政が選択する時、どんなメリットおよびデメリットがあるかを、しっかりとお答えする必要があります。そのための情報資料の提供ができる図書館であってほしいのです。浦安では市に関する事と、ディスプレイに関する事の新聞記事を全部切り抜き、開館以来16年間、保存しています。これらは、市民や行政、議員の方々に利

用されています。

汚染物質の中身や浚渫して取除く技術について知りたい、湾岸道路について知りたいという議員からの質問に建設省など、他の機関にも問合せをして資料を提供する事などもしています。

新市長が博物館の建設を止めて、福祉関係に予算を使いたいと提案した時には、東京の都市博中止の時の資料を取寄せて提出しました。

情報公開に関する事も行政の窓口は土、日には閉まっています。利用できないので図書館に資料を置いて公開できるようにするにはよいと思っています。

### ◎公共図書館における課題

日本の公共図書館に足りない点は、ビジネスサービスではないでしょうか。たとえば、地元の中小企業に対するもので、中小企業の自立を助け、また、会社を起ころうという人のための情報資料の提供が足りません。  
ニューヨークの公共図書館で起業家

にアテントした時、企業を起すために一番役立つのは図書館であるという結果が出ています。

機会均等に重きを置くアメリカでは、ホームレスが図書館で学習して財を成した例は、少なくありません。

### ◎図書館政策の確立

図書館は文部省の管轄にあり文化政策でもあるが情報政策としてとらえる方がよいのではないのでしょうか。

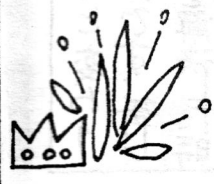
アメリカでは図書館政策を情報政策と位置づけ、ゴア副大統領が「情報ハイウェイ構想」を提唱しています。それ程、情報といつものに重きを置いているのです。

また「アメリカン・メモリー・プレゼント」と名づけ、議会図書館の中の膨大な資料情報をデジタル化して学校の教材としても使っていくとしています。情報は国民ひとりひとりに平等に提供されるべきであり、イカオロギーなどは無関係な事です。そして図書館では聞いてはいけない事は何も無いのです。その際、どこかにある資料

情報を誰がどうやって取出すかは、各自治体の姿勢によるところが大きいといえます。財政面からいえばアメリカは、日本の四倍の公費を図書館に投入しています。人口比から考えても日本の二倍です。アメリカでは、それに多額の寄付金がかかります。

資源のない国である日本の資源は「人材」です。国民ひとりひとりのレベルアップは、学校だけでは足りない面があり、そこに公共図書館の役割があります。

国を強くするーそれは全世界を平和にするために活動できる国にする事ではないでしょうか。そのためには、もとコストを惜しまず、適確な資料・情報を提供できる図書館の専門家を養成し、図書館を有効に生かせるようにするのが自治体の政策として期待されます。なぜなら、図書館は、唯一、自治体の自由裁量に任せられる部分が大変大きい公共施設なのですから。





# 〈質疑応答〉

① 質 市町村立図書館と県立図書館の違いは？

② 答 県立は市町村立で賄い切れないものをカバーする所です。県立は、図書館のための図書館。都立では一般貸出しはしないが閲覧はできる。

③ 質 図書館は、市町村によって大きな差がある。どうしてか？

④ 答 地方自治は3割自治と言われ、るが図書館は100%地方自治である。図書館の設置条件はあるがサービスなどの条例は無く、特異な行政なので、国や県の基準がないので、首長の方針や職員の方針次第で大きな差が出て来ます。やらなければならぬという事も無く、やらなければならぬという事も無いのです。

⑤ 質 図書館員としては、本が好きで、人と会うのが好きだから司書になったというのでは問題がある。司書は人が好きでないと勤まりません。

30年前からみると、図書館は、数も予算も何倍にもなっています。一般の行政は、国や県のたががあるため、市町村独自の方針では行えない部分があります。町づくりと図書館づくりは、独自の方針でやれるので、地方自治の原点と言えるところです。

⑥ 質 図書館の開館時間についてどう考えるか？

⑦ 答 アメリカの例でいうと、大学の教授や学生が対象である大学図書館は、24時間開いている所が多いが、全部のサービスを24時間しているわけではありません。公共図書館は、専門職員がいらない時間帯には閉館しません。分館は、土・日は開いていない所が多いようです。ビジネス街の図書館は、昼休みが一番混んできます。24時間開館という所では、深夜にはピストルを持ったガードマンだけという所もあります。

⑧ 質 結局、コンビニ型が専門店型かという事になると思いますが、量販

かと言えば、やはり質を大事にしたものです。長い時間開館している事が必ずしも良いとは言えず、その中身が大切なのではないのでしょうか。  
(記録 大久保ヒロ子)

## ● 参考図書

- ・「図書館のめざすもの」 竹内哲 日本図書館協会 一九九七
- ・「図書館であそぼう」 辻由美 講談社 一九九九
- ・「図書館づくり奮戦記」 山本宣親 日外アソシエーツ 一九九六
- ・「ライブラリアン奮戦記」 リンガ子 径書房 一九九六
- ・「新本とつきあう法」 津野海太郎 中央公論社 一九九八

